

# 越嶺会報

令和6年(2024年)7月20日

第97号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax(076)445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ

越嶺会http://www.3-u-toyama.ac.jp/e



tsurei/そつれいかい

## 記念大会(10月13日)への参加をお待ちしています



▲  
式典・祝賀会のお申し込みはこちらから

※20頁にご記入の上、Faxしてください  
また左のQRコードからも申し込めます  
ご利用ください

### 目次

第1部	100周年記念事業について(記念事業概要、寄附者ご芳名、実行委員名一覧)	
第2部	越嶺随想 翻訳本を読み比べる愉しみ(4・了) 杉浦吉治(学部14回).....	11頁
	母校だより.....	12頁
	教員の異動 ご逝去、新任、令和6年度入学生出身地	
	受贈図書御礼紹介	
	叙勲おめでとうございます.....	14頁
	同窓会連合会の活動.....	14頁
	第十六回ゴルフ大会	
	記念大会前後の同期会等のお知らせ	
	昭和四十五年入学者の会、学部三十一回同期会、丹羽昇先生ゼミ謝恩会	
	会員の訃報.....	15頁
	謹んでお悔やみ申し上げます.....	15頁
	ゴルフコンペ案内・申込書.....	17頁
	エクスカーション(バス小旅行)案内・申込書.....	18頁
	記念大会(10.13)及び関連行事への参加申込書.....	20頁

## 富山大学経済学部（旧高岡高商）

## 創立一〇〇周年記念事業（再掲）

## 基本方針(要旨)

富山大学経済学部創立一〇〇周年の大きな節目を迎えるにあたり、創立五〇周年から実施された各記念事業の内容を踏まえつつ、母校である富山大学経済学部のさらなる発展に向けて、同窓生の連帯を強めるための事業を展開します。

多様な能力を活かしながら新たな付加価値を創造し果敢に未来を切り拓いていく人材がこれまで以上に求められることから、越嶺会としてその担い手の育成に向けて重点的な支援に取り組むものとなります。

## 募金について

## (1) 募金方法

- ①募金は、分割も可とし、毎回の会報送付時に振込用紙を全員に同封。(周囲の会員に勧めてもらうためにも。)
- ②越嶺会報に寄付者名簿を掲載(募金者名の掲載についての意向を確認のうえ対応。匿名・金額非表示など)

(2)振込先は左記のとおりです。いずれも口座名「越嶺会」

郵便局 0071019114562

北陸銀行五福支店 普通1001220

富山銀行五福支店 普通0313728

富山第一銀行五福支店 普通0006156

富山信用金庫五福支店 普通0015639

## (3) 募金基準額

■一口 五千元。基準額として、卒業年次別の募金要請口数を設定します。

A 高商、学部一〜二回 基準を設けず

B 学部一三〜二二回 現七〇歳代で2口以上

(できれば4口以上)

C 学部二三〜三二回 現六〇歳代で2口以上

(できれば4口以上)

D 学部三三〜四二回 現五〇歳代で2口以上

(できれば4口以上)

E 学部四三〜五二回 現四〇歳代で2口以上

F 学部五三〜六二回 現三〇歳代で2口以上

G 学部六三〜七二回 現二〇歳代で1口以上

H 短期大学部、院修了生

右記該当年齢区分に準じて1口(五千元)以上

■法人への募金要請額 一口 五万円





十七回

上埜	磯井	池田	青木	若山	藁	蜜澤	堀	針山	早川	渡久山	太茂野	田上	瀬筒	小西	小泉	久郷	匿	大野	浅井	吉田	安江	森川	三浦	松田	松井	本多	堀	林	萩谷	子吉	中澤	徳田
進	幹彦	一郎	修	昌毅	國夫	有二	道彦	健二	正敏	楯	洋	一夫	澄博	由郎	孝二	隆行	名	泰則	育弘	榮一	秀彦	勝彦	忠彦	弘	信夫	正文	慎一郎	茂春	雅文	重信	邦雄	毅
一〇万	非表示	五千	一万	二万	二万	五千	二万	二万	二万	非表示	一万	一〇万	二万	二万	二万	二万	非表示	二万	二万	二万	一万	一万	一万	一万三千	二万	一万	一万	非表示	一万	一万	一万九千	一万

十六回

十八回

古田	二口	福田	日出	盤若	浜松	浜田	長谷川	野村	野田	中岡	鳥本	富田	高原	島田	佐々木	太田	遠藤	稻村	西坂	中西	殿村	田中	高田	篠田	佐野	呉座	郡	黒田	川嶋	兼松	奥野	大坪
俊吉	孝志	哲郎	恒夫	義一	政俊	等	健郎	邦雄	賢次郎	哲男	昌弘	大三郎	徹	重夫	俊夫	重和	敏之	敏夫	緑郎	誠一	和敏	政彦	幹夫	政治	憲正	孝一	霽	宣夫	隆志	稔	雅雄	登喜雄
二万	六千	二万	非表示	一万	一万	一万	七万	一万	三万	非表示	一万	一万	一万	非表示	非表示	五万	二万	二万	二万	一万	一万	五千	三万	一万	非表示	一万	二万	一万	非表示	二万	二万	一万

二十回

小野	匿	大橋	匿	遠藤	浦田	上田	衣斐	浅生	山下	緑	松田	福田	伴	能町	西堀	寺崎	寺越	田畑	田辺	高野	高田	島津	後藤	金森	奥	今井	吉國	谷内	宮地	水本	盆下	細萱
崇	名	正幸	名	実	規央	敏裕	隆	正明	寛	忠夫	弘之	幸進	茂夫	誠一	喜久夫	伸一	慎一	敏美	知昭	昇	真悟	一夫	健次	喜久男	清一	修一	睦治	雅彦	秀明	隆範	美雄	美嗣
二万	非表示	一万	非表示	一万	二万	一万	一万	一万	非表示	一万	非表示	二万	二万	四万	非表示	二万	非表示	三万	三万	二万	非表示	一万	一万	一万								

十九回

二二回

往蔵	梅本	石田	穴田	浅野	米原	山木	本山	匿	林	橋本	橋本	寺田	谷	澤合	釜谷	角出	小竹	奥村	浦本	石橋	渡辺	吉谷	山本	森田	森下	堀切	舟木	樋口	寺林	辻	関井	加藤
龍夫	清一	聡	茂	好生	俊孝	則男	信男	名	一夫	良平	洋二	正信	和夫	文雄	春雄	憲明	茂樹	正明	寛	高博	吉明	知二	隆義	博	俊夫	実	幸雄	英雄	敏	敏憲	哲仁	博祥
二万	三万	非表示	一〇〇万	非表示	一五万	一万	二万	非表示	一万	二万	一〇〇万	一万	二万	二万	八万	一万	三万	二万	二万	非表示	一万	非表示	一万	一万	一万	五万	三万	一万	三万	一万	五千	一万

二二回

二三回

清水	佐竹	窪田	菊野	匿名	石原	安田	森田	三宅	松井	松	榎	堀	北国	花尾	長谷川	中村	中村	中坪	中島	寺田	千葉	田中	立松	武部	竹澤	杉森	黒川	窪田	酌井	川畑	上條	帶原
修	俊夫	繁	一裕	名	昇治	隆	守保	博	清信	二郎	春夫	雄一	正則	芳雄	修	昌弘	政直	達哉	澄雄	登	茂幸	史	信孝	巧	喜孝	聡	清孝	建司	博美	滋樹	光信	隆
一万	一万	二万	二万	非表示	二万	五千	一万	一〇万	非表示	一万	一〇万	一万	二万	一万	二万	三万	一万	二万	二万	一万	二万	一万	一万	二万	二万	二万	二万	一万	一万	五千	二万	二万

二五回

村山	匿名	橋本	成田	布目	中島	吉川	加須榮	石川	飯塚	荒田	麻生	青山	藤田	服部	匿名	寺戸	田中	末永	庄司	蘭守	池原	毛利	南	松本	松下	松尾	平方	樋口	橋本	名小路	谷口	竹田
修	名	泰	順一	大剛	裕三	倫子	徹朗	富洋	修	一成	郁彦	誠一	龍造	重敬	名	弘之	久夫	孝光	美次	貴弘	孝一	彰	毅之	敏郎	勝見	博文	睦男	高利	邦雄	朝雄	俊幸	敏博
三万	非表示	五千	一〇万	五万	二万	一万	二万	一万	五万	非表示	五千	一万	二万	一万	非表示	二万	二万	一万	非表示	五万	二万	一万	二万	一万	二万	二万	二万	二万	一万	非表示	一万	一万

二四回

二七回

大野	大野	大澤	榎	岩見	岩垣	市井	伊田	浅田	持田	皆川	増井	堀田	細川	平田	沼田	匿名	匿名	高田	鈴木	柴田	三箇	川端	川口	金田	金武	笠松	奥田	内山	伊藤	五十嵐	山澤	森高
泰典	昌伸	道信	哲史	登志久	誠	伸二	知弘	章敬	寛	藤夫	秀次	正之	茂	外喜夫	穂積	名	名	昇	昭一	清	周治	文夫	謙一郎	弥之	和宏	一久	泰三	高秀	恒俊	修	昌子	寿正
二万	非表示	非表示	一万	一万	非表示	非表示	二万	一万	非表示	一万	一万	一五万	一万	一万	五万	非表示	非表示	一万	一万	一万	二〇万	五千	五千	一万	一万	二万	一万	一万	一万	二万	二万	一万

二六回

二八回

辻	作道	高月	高崎	曾禰	杉野	嶋崎	乙部	奥村	海野	荒木	芦田	和多利	吉野	山元	森川	前田	藤井	廣瀬	平工	林	林	馬場	永田	長瀬	中島	常本	曾我	櫻井	小林	木村	川瀬	小川
年男	正勝	修	眞樹夫	原孝夫	武義	貢	昭広	健一	等	正一	静男	隆之	哲哉	秀一	完一	昭夫	裕毅	靖明	信雄	正人	茂美	幸博	芳久	総明	清雅	悟	教雄	靖史	武人	正明	基裕	繁夫
一万	一万	一万	一万	一万	三万	二万	非表示	非表示	一万	一万	一万	非表示	二万	一万	五千	一万	一万	二万	非表示	二万	二万	二万	三万	二万	二万	二万						

三〇回

二九回

杉林功進	伍嶋二美男	桑原幹也	京田武彦	乙部寿範	大野公久	伊野伸英	麻生成俊	渡辺昇	脇田守男	山城卓三	柳勝彦	宮村樹	匿名	松田和之	松島義彦	堀孝雄	細川俊治	古川均	福井直樹	鶴瀬初弘	鈴木政司	黒河勉	匿名	梶井昇	東優治	山本英博	匿名	森秀貴	前川克博	古岡雅弘	原馬宏之	濱田博一
一万	三〇万	五万	非表示	二万	二万	二万	二万	二万	三万	一万	二万	一〇万	非表示	二万	五千	五千	五千	一万	三万	三万	一万	一万	非表示	五万	二万	二万	非表示	一万	三万	一万	一万	二万五千

三二回

綿木美和子	横尾進	松田圭司	細川勉	舟崎友晶	林清滋	中村哲広	中島弘人	篠原義明	境博紀	匿名	木村昌幸	匿名	岩瀬正昭	石黒希与志	四柳克彦	匿名	山田吉晴	向哲広	本田豊	広田隆博	野村豊秋	野路耕三・都	中村吉孝	中根登	中田和夫	中嶋浩顕	長坂保彦	寺西裕行	恒川哲二	辻康之	匿名	杉村裕之	
二万	一万	二万	一〇万	一〇万	一万	二万	三万	三万	一万	非表示	二万	非表示	二万	非表示	二万	非表示	三万	二万	一万	一万	二万	四万	一万	一万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	非表示	一万

三三回

三二回

横田謙治	本國俊明	福田直之	中山洋	中本秀史	寺西一彦	田中博明	田中新助	曾我英次	佐藤徹	坂田昌弘	北越浩和	小野寺隆人	匿名	大河正則	浦井正明	油谷浩	匿名	山本康二	森山徹	森永利宏	松井康浩	福田哲也	福住信一	長谷川純一	野坂信宏	寺松信悟	津幡悟	竹野博和	高橋徹	加藤俊一	石井幸治	秋元一秀
一万	一万	二万	一万	二万	非表示	非表示	三万五千	二万	二万	一万	四万	一万	非表示	二万	一万	二万	非表示	一万	一万	二万	二万	非表示	一万	非表示	二万	二万	五千	一〇万	五千	非表示	五万	非表示

三五回

三四回

古里博人	樺直之	清水豊	小原哲朗	岡本永幸	大橋幸	太田靖一	井上敏宏	山田勉	山瀬孝	森山真人	水谷朗	丸杉輝	松本智広	松本晃司	松代憲和	檜山和良	橋本茂雄	野崎栄治	中山浩司	土屋雅裕	土屋誠	棚瀬重雄	田中秀秋	館秀士	寫田靖士	小林温子	木村佳子	尾関智保	奥井智実	大塚真一	渥美真一	青木一也
二万	非表示	一万	非表示	二万	一万	二万	非表示	五万	八万	二万	一万	三万	八万	一万	二万	二万	二万	二万	三万	一万	五万	非表示	四万	一万	非表示	二万	二万	非表示	非表示	二万	二万	非表示



二回	一回	一回	九回		八回	六回		五回	四回		三回	二回																								
古田 暉彦	重松 文治	北林 恒好	時沢 信行	匿名	河原 憲行	河瀬 和文	山崎 弘之	宮本 裕孝	松沢 一郎	野田 洋	浅田 則子	安倍 清	匿名	大垣 輝夫	山本 賢治	中田 正雄	榎崎 進	立田 征夫	稲垣 寛	藤岡 勲	水馬 正和	吉崎 正二	前田 明	福田 正利	寺田 秀雄	高田 政公	菅原 昭	新開 実	押田 邦夫	林 貞昭	稲垣 實	喜夫				
一万	一万	五千	一万	非表示	一万	五千	一万	二万	五千	一万	非表示	二万	非表示	一万	一万	一万	一万	一万	五千	二万	一万	五千	五千	三千	一万	三万	三万	五千	非表示	三万	一万	一万	一万	五万		
			三〇三九万六九七七円也	八五三件									院																							

100周年記念事業実行委員の皆さんのお名前

(部会員については随時新規加入)

卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)	卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)
24回	S51年卒	藺守 貴弘 (新田)	8回	S35年卒	中尾 哲雄 (新田)
		増岡 伸一 (山口)	14回	S41年卒	四津井宏至 (中村)
25回	S52年卒	飯塚 修 (山崎)	17回	S44年卒	上埜 進 (山崎)
		(関東越嶺会長)	18回	S45年卒	遠藤 敏之 (瀬岡)
		布目 大剛 (植村)			宮地 秀明 (菅原)
26回	S53年卒	堀田 正之 (山口)	19回	S46年卒	奥 清一 (植村)
27回	S54年卒	小林 武人 (香川)			(東北支部長)
		吉野 哲哉 (竹田)	20回	S47年卒	舟木 幸雄 (岩淵)
28回	S55年卒	碓井 光一 (吉原)			(福井支部長)
29回	S56年卒	宮村 樹 (丹羽)			寺林 敏 (友杉)
		鶴瀬 初弘 (丹羽)	21回	S48年卒	小竹 茂樹 (大谷)
		福井 直樹 (新田)			釜谷 春雄 (吉原)
30回	S57年卒	伊野 伸英 (清家)			澤合 文雄 (菅原)
		伍嶋二美男 (丹羽)			橋本 洋二 (野崎)
		(越嶺会会長)			米原 俊孝 (吉原)
		麻生 成俊 (新田)	22回	S49年卒	帯原 隆 (小松)
		桑原 幹也 (新田)			杉森 聡 (山崎)
		山田 吉晴 (丹羽)			鳥居由美子 (吉原)
31回	S58年卒	舟崎 友晶 (山崎)			中村 昌弘 (菅原)
					(東海支部長)
					三宅 博 (吉原)
					(関西支部長)

卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)	卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)
48回	H12(2000)卒	川畑 雄史 (田中)	32回	S59年卒	竹野 博和 (吉原)
49回	H13(2001)卒	沖 よし子 (今村)			石井 幸治 (吉原)
		小笠原史明 (中村)			森 浩一 (小島)
50回	H14(2002)卒	宮崎 達也 (内田)			(石川支部長)
51回	H15(2003)卒	花岡 秀樹 (高山)			森永 利宏 (田中)
52回	H16(2004)卒	黒崎 正 (小倉)	33回	S60年卒	福田 直之 (吉原)
53回	H17(2005)卒	開坂 哲也 (増田)	34回	S61年卒	木村 温子 (吉原)
		川崎 理恵 (中村)			崎 安宏 (澤野)
54回	H18(2006)卒	重原佐千子 (鈴木)			土屋 誠 (坂口)
55回	H19(2007)卒	能登 幸美 (清家)			長津 輝彦 (中山)
57回	H21(2009)卒	道林 達也 (中村)			松本 智広 (中藤)
58回	H22(2010)卒	福田 純子 (宮井)			丸杉 輝 (吉原)
59回	H23(2011)卒	川口 彰悦 (石田)			山瀬 孝 (萩野)
		黒川 美恵 (松井)			山田 勉 (伊藤)
		園部 佑樹 (本間)	35回	S62年卒	岡本 武 (森菌)
61回	H25(2013)卒	杉江 咲樹 (高山)	36回	S63年卒	浦田 純一 (大野)
62回	H26(2014)卒	岩井 彬穂 (清家)			川端 宏典 (丹羽)
63回	H27(2015)卒	金沢 輝 (馬)			杉本 正人 (棚田)
65回	H29(2017)卒	長沖 賢志 (横山)	37回	H01(1989)卒	大西 哲憲 (小原)
		清水 雅文 (八百)			竹内 博文 (吉原)
67回	H31(2019)卒	堀川潤一郎 (古川)			谷畑 滋英 (古田)
		山田 航大 (橋口)	38回	H02(1990)卒	加藤 健 (萩野)
68回	R02(2020)卒	青木 佑司 (眞部)			竹田 達矢 (吉原)
		中田 雛子 (伊藤)			殿村 幸子 (佐藤)
69回	R03(2021)卒	吉田 未央 (龍)			大波加 肇 (相沢)
		末石 航也 (中村)			五島 直樹 (萩野)
70回	R04(2022)卒	井澤 彩斗 (龍)			高木 雅弘 (古田)
短2回	S38(1963)卒	稲垣 喜夫 (田村)			二口 洋 (日水)
短3回	S39(1964)卒	高田 政公 (飯田)			山崎 努 (武脇)
短6回	S42(1967)卒	大垣 輝夫 (飯田)	39回	H03(1991)卒	亀永 辰之 (榊原)
短8回	S44(1969)卒	松沢 一郎 (藤原)	40回	H04(1992)卒	寺嶋 直美 (岩崎)
短9回	S45(1970)卒	河原 憲行			赤川 浩一 (萩野)
短11回	S47(1972)卒	重松 文治			堺 広光 (小原)
短13回	S49(1974)卒	嶋田 茂晴 (高橋)	41回	H05(1993)卒	金瀬 正志 (古田)
短16回	S52(1977)卒	浦田 竹昭 (榊原)			牧山 貴英 (武脇)
		志村 幸光 (岡本)	42回	H06(1994)卒	東田 勇秀 (中藤)
		中保 仁志 (岡本)	43回	H07(1995)卒	手崎 裕之 (山本)
短24回	S60(1985)卒	山崎 宗良 (榊原)	44回	H08(1996)卒	小島 雅史 (飯野)
院20回	H24(2012)卒	荻布 彦 (内田)			杉原 英樹 (小原)
			46回	H10(1998)卒	村田 英久 (小原)
			47回	H11(1999)卒	大嶋 敬右 (田中)
					上田亜希子 (榊原)

## 越嶺随想－翻訳本を読み比べる愉しみ (4) 杉浦吉治 (学部14回)

たいする愛」、高は「我々の愛国心」、そして村井・北川は「私たちは祖国を愛する (あまり)」と訳している。水田はややくどいし、“nation”を「国民」と訳しているがここでは「国」の方があとの繋がりがよい。村井・北川は後に続く文脈から特に問題は無いが、ここは高の訳がシンプルでよい。

“superior”を水田は「上位者」、高は「上司」、村井・北川は「上位機関」と訳しているが、ここは明らかに「上位機関」であろう。

“The regard for the laws of nations, or for those rules”を、水田と村井・北川はともに「国際法」、高は「それぞれの国の法律」としている。ここはシンプルに「国際法」がよい。

最後のフレーズは、三者三様であるが、水田の翻訳は読みづらく、村井・北川の方が分かり易い。

この一節は、ちょうど英仏7年戦争(1756～63年)のときに書かれたものであるが、正に現在の世界情勢を如実に表している。「国際法とは、つまりは独立国が相互の問題解決を図るうえで遵守すべきだと公言する規則、あるいはそう考えるふりをしてい  
る規則であって、この規則の遵守は往々にして口先だけ、形だけである。」と、263年前にスミスが著していたことに驚き、人間はいつになっても進歩していないことに愕然とさせられる思いである。

『道徳感情論』は18世紀の英語で書かれたもので、しかも現代の英語に比べると一つの文章が随分長くて読みづらい。単語も現代の英語とスペリングがわずかに異なっているものがある。

例；aggrandisement⇒aggrandizement、neighbouring⇒neighboring、  
pretence ⇒pretense

翻訳本をこのように比較して読んだのは初めてだが、経済学者（水田、高）の訳と翻訳家（村井・北川）のそれとの違いがよく分かった。『道徳感情論』を著したスミスは言うまでもなく「経済学の父」といわれているが、グラスゴウ大学で道徳哲学の講義をしていた。『グラスゴウ大学講義』では、経済学に関するものが法学の一部として扱われていた。と同時に法学も経済学も、スミスにとっては、広く道徳哲学の一環として扱われていた（高島善哉）。もともとこの書は経済学書ではなく『国富論』出版の17年前に著した道徳倫理学の著書である。従って、経済学者よりも翻訳家の訳本の方が読みやすかったのであろう。

翻訳家でMパワー・パートナーズ共同創業者でもある 関 美和女史が、「著者の声が聞こえるように読者に届けることも心がけます。もしこの人（著者）が最初から日本語で書くとしたらどう表現するかということも考えます。自然な日本語になるように心がけています。」（朝日新聞、2022.04.16朝刊）と話していることに大いに納得したものだ。

おわび：分割掲載で読者には読みづらく、筆者の杉浦様にはご迷惑をかけました。  
分割掲載完結にあたり改めておわび申し上げます。（事務局）  
また、アンダーラインのつけ方がズレていたので、再掲載しました。

# 母校だより

## 教員の異動

(一)逝去



鳥羽達郎教授

(マーケティング論担当)  
五月二十七日急逝された。享年五〇歳。二〇一〇年四月着任。二〇一四年四月教授昇任。(一五頁をご覧ください)

## 新任

(二〇二四年四月一日付)



松本 知己(まつもと ともしき)  
特命助教  
所属学科・講座..

(ア) 学術研究部社会科学系  
(イ) 経済経営学科  
担当: 統計学B、  
情報技術概論

最終学歴: 奈良先端科学技術  
大学院大学  
博士(工学)

前職: (株)Bijection Space  
生年: 一九九二年五月一日

出身地: 岡山県岡山市  
ひとこと: 富山と言えばP・A・WORK。修士二年の夏

富山が舞台の作品であるTrue  
Parisの聖地巡りをするため  
に、研究室の後輩と初めて富  
山を訪れました。当時はここ  
で働くことになるとは想像し  
ていませんでしたが、改めて  
いい場所ですね。

私は筑波大学・大学院で社  
会工学を学んだ後、五年半、  
民間企業でデータサイエンテ  
ィストとして勤務しておりま  
した。その後、退職して奈良  
先端科学技術大学院大学で博  
士号を取得し、ありがたいこ  
とに富山大学からご縁をいた  
だき、着任いたしました。こ  
の文字を打っている最中も、  
空気がうまい。立山連峰が香  
ります。

専門はベイズ統計学とその  
社会問題への応用といったと  
ころです。バックグラウンド  
が社会工学ということで、数  
理を用いて社会問題を解決す  
ることに興味があります。既  
存の技術を応用するだけでなく、  
必要に応じて開発するの  
も大切であると感じており、  
理論と応用の両面で研究を行  
っております。

富山大学経済学部は三学科  
を統合し経済経営学科へと生  
まれ変わり、データサイエン  
スで社会問題を解決できる学  
生を育成しようとしておりま  
す。私の専門は言葉を変えれ  
ばデータサイエンスですので、  
富山大学に貢献できることが  
さまざまあるのではないかと  
思っております。私が大学と  
民間で学んできた多くのこと  
を学生に伝え、「データサイ  
エンス、いいね!!」と一人で  
も多くの学生に思っていただ  
けるよう、頑張っていきたい  
と思います。全くもって「ひ  
とこと」ではなくなってしまう  
と思いました。皆様、よろしくお  
願いいたします。



山本真人(やまもと まこと) 助教

担当: 地理学  
最終学歴: 三重大学大学院生

前職: 物資源学研究所  
鈴鹿工業高等

専門学校

生年: 一九八九年二月

出身地: 和歌山県東牟婁郡  
ひとこと: 富山大学に赴任し  
て、執筆時点でおよそ二か月  
が経過しました。初めて富山  
市に来たときはまだ寒く、  
時々降る雨に震えたように思  
います。しかし、気が付けば  
桜も散り、時折、汗ばむ陽気  
の日も経験するようになりま  
した。また、そう遠くない日  
に梅雨入りもするでしょう。

「光陰矢のごとし」とはい  
ませんが、本当にそのとおりで  
すね。それを思うと、日々の  
出来事を大切にしていきたい  
という思いがより強まります。  
特に、教育や研究においては  
一人一人の個性を尊重し、可  
能性を引き出せるような存在

令和6年度入学生出身地

都道府県名	男	女	計	
北海道	1	2	3	
東北	青森県			
	岩手県			
	宮城県	1		1
	秋田県			
	山形県	2	1	3
関東	福島県			
	茨城県	1		1
	栃木県	2		2
	群馬県	4		4
	埼玉県			
	千葉県	1		1
	東京都	1	1	2
	神奈川県	1		1
	山梨県	2		2
	信越	新潟県	11	1
長野県		11	10	21
北陸	富山県	55	46	101
	石川県	34	40	74
	福井県	7	9	16
	岐阜県	23	7	30
東海	静岡県	6	2	8
	愛知県	29	2	31
	三重県	1	1	2
近畿	滋賀県		2	2
	京都府	1	1	2
	大阪府	2		2
	兵庫県	3		3
	奈良県	3	1	4
中国	和歌山県			
	鳥取県	1		1
	島根県	1		1
	岡山県	2		2
	広島県			
四国	山口県			
	徳島県			
	香川県			
	愛媛県		2	2
九州沖縄	高知県	1		1
	福岡県			
	佐賀県			
	長崎県			
	熊本県			
	大分県			
九州沖縄	宮崎県	1		1
	鹿児島県			
	沖縄県	2	1	3
外国の学校				
外国留学生				
計	210	129		
合計	339			

となることを目指していきたく  
 と思っています。  
 さて、担当を地理学と書き  
 ましたが、特に、地理情報シ  
 ステム(GIS)を用いた教  
 育・研究を行っています。G  
 ISは様々な分野に活用可能  
 な技術であると捉えることが  
 できますので、授業などでは  
 その可能性を伝えられるよう  
 にと努めています。また、  
 「環境」、「観光」、「地域振興」を  
 キーワードとして新たな研究  
 に挑戦しているところ です。  
 それでは皆様と共に末永く  
 充実した時間を過ごせるよう  
 にと願っております。これか  
 らどうぞよろしくお願ひ申し  
 上げます。

担 所 属  
 当 属  
 国際研究センター  
 理学部の  
 国際コース  
 PETERSON MILES ISAO  
 ピーターソン マイルズ イサオ  
 助教



最終学歴 博士(理学)  
 信州大学  
 前 職 日本学術振興会  
 特別研究員PD  
 生 年 一九九一年七月  
 出身地 日本(群馬県)  
 ひとこと 私 は日本生まれの  
 アメリカ人で、過去一〇年程  
 度は長野県に住んでいました。  
 主な研究テーマは水生外来  
 生物の定着プロセスと影響の  
 解明です。  
 さらに外来種や気象変動の  
 影響を受けやすい希少在来種  
 の保全に取り組んでいます。  
 これまではブラックバスの一  
 種コクチバスやブルーギル、  
 マス類、マミズクラゲなど調  
 べています。

武暢夫先生夫人から  
 『一六世紀イングリッド農村  
 の資本主義発展構造』  
 松村幸一著  
 二〇一一年五月二〇日  
 思文閣出版発行  
 一四〇〇〇円(本体)。  
 A五判九十五八二十六〇頁  
 「はじめに」を武先生が四頁  
 にわたり執筆されている。

受贈図書御礼紹介

叙勲  
おめでとーいぎょうまつ

二〇二四年春の叙勲受章  
旭日双光章受章  
飯田修平さん  
(学部二三回)  
元砺波市議会議長  
浦田竹昭さん  
(短大部一六回)  
元滑川市議

同窓会連合会の活動

第十六回ゴルフ大会

今回は、越嶺会が幹事になり太閤山カントリークラブで八組二七名で開催された。

越嶺会 一三名  
仰岳会 七名  
葉窓会 六名  
雪紋(理) 一名

結果は、団体戦は  
優勝 越嶺会A  
二位 仰岳会B  
三位 越嶺会C

個人戦は  
優勝

木村昌幸さん(越嶺会)  
二位 島崎修一さん(仰岳会)  
三位 土屋 誠さん(越嶺会)  
であった。



越嶺会参加者名

中尾 哲雄 八回  
木村 昌幸 三一回  
松原 隆光 五四回  
関井 哲仁 二〇回  
中本 秀史 三三回  
浅井 清史 三四回  
古里 博人 三五回  
土屋 誠 三四回  
木勢 博文 短  
丸杉 博輝 一七回  
檜山 和良 三四回  
杉本 正人 三六回  
長谷川 正人 四〇回

記念大会前後の同期会等の  
お知らせ

同期会  
「昭和四十五年入学者の会」  
のお知らせ

十月十二日(出)  
午後五時  
会場・カナルパークホテル

翌日は同じホテルで一〇〇周年記念祝賀会になりますので皆様のご参加をお待ちしております。

学部三十一回同期会のご案内

十月十三日(日)  
午後五時三〇分  
会場・ホテルグランテラス  
富山(旧名鉄ホテル)  
会費・同期会八千円  
二次会三千円

今回は、記念すべき経済学部百周年、私たちの入学から四五年の節目になります。できましたら式典・祝賀会にも出席され、出席できない方も同期会には是非ご参加ください。是非ご参加ください。

世話人

舟崎 友晶、石黒希与志、  
助田 篤郎、俣本 浩之、  
松田 圭司  
連絡先  
舟崎友晶(富士印刷)  
〇七六-四三二-二四三四

丹羽昇先生ゼミ謝恩会

十月十三日(日)  
午後五時三〇分  
会場・富山市内のホテル  
(ご参加の方に別途案内)

今年度は丹羽ゼミ第一期生の卒業から数えて四八年が経過するとともに、富山大学経済学部(旧高岡高商)創立一〇〇周年を迎えることから、経済学部、越嶺会による「記念大会」終了後、丹羽ゼミ謝恩会を開催する運びとなりました。恩師・丹羽昇先生を囲み旧交を温めるとともにしばしの歓談を楽しんでいただきましたと存じます。

發起人  
宮村 樹(第二九回)  
伍嶋二美男(第三〇回)  
事務局  
寺西 裕行(第三〇回)

### 会員の訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
教 員	鳥羽 達郎	令 6 (2024). 5. 27	学部14回	金田 松三	令 6 (2024). 4. 9
高商18回	青木福太郎	平26(2014).10. 4	学部15回	酒井 宏昌	令 6 (2024). 2. 14
学部 5 回	石黒 隆	令 6 (2024). 4. 16		高辻 俊英	令 1 (2019). 5. 29
	島倉 敏夫	令 6 (2024). 6. 19	学部18回	京井 一夫	
	中澤 透	令 5 (2023). 4. 1	学部20回	北出 久男	令 6 (2024). 4. 7
	堀井 勇	令 5 (2023).12.31		山下 博美	平29(2017).11. 7
学部 7 回	赤祖父 清	令 5 (2023). 6. 3	学部37回	藤井 康裕	令 6 (2024). 2. 12
学部13回	古村 義雄	令 6 (2024). 2. 11	学部39回	奥林 直之	令 1 (2019). 9. 3
	中村 希朗	平31(2019). 4. 18	短大 2 回	近藤 和夫	令 5 (2023). 5. 10

### 謹んでお悔やみ 申し上げます

経営学教授の鳥羽達郎先生には、去る二〇二四年五月二十七日(月)脳出血で急逝された。

六月四日に実家の長崎県北松浦郡佐々町で葬儀が執り行われた。

六月八日(土)にはオークスレモニーホール呉羽でお別れの会があり、学生、ゼミOB、経済学部教員事務員の皆さんが多数参列された。森口経済学部長はじめ、大学と大学院が同窓の垣田直樹教授、学部ゼミ生、院ゼミ生がそれぞれお別れの言葉をささげた。

森口経済学部長からは、次のようなお別れの言葉があった(概略)。

鳥羽先生は、教育・研究・学部の管理運営、いづれにも手を抜くことなく取り組んでもらい本当に信頼できる方でした。魅力あふれる鳥羽先生のゼミは大変人気があり、ゼミ面接では順番待ちの学生が廊下にあふれるほどで、素晴らしい人柄を物語っています。今日の地方国立大が置かれ

た厳しい環境の中で経済学部が魅力を発信していくために、ぜひ先生のお力をお借りしたかったのですが、とても残念です。これまで経済学部の発展に貢献いただき、多くの関係者に温かい思い出を残していただき感謝しています。どうか安らかに眠りください。

さらに、鳥羽ゼミ第一期生の山中遼さんがお別れの言葉を述べた。

突然の訃報に接し、あまりに早い先生とのお別れに、今も気持ちの整理がついていません。

最後にお会いしたのは昨年、我々一期生の忘年会でした。元気なお姿、優しい笑顔、カラオケでの歌声。あの日のことが、つい昨日のよううに思い浮かびます。

鳥羽先生が富山大学経済学部に着任された二〇一〇年の春、私達はマーケティング論の講義で先生を初めて知りました。講義の面白さ、お人柄に惹かれ、「先生の下で学びたい」と強く思い、鳥羽ゼミを志望しました。



2013年1期生卒業式

先生と同期との活動は、ゼミに留まらず、真冬の韓国旅行、真夏の就活合宿、卒論の構想発表、発表会の準備のほか、後輩にも恵まれ、三期合同の忘年会、追いコンも行いました。卒業旅行は、先生と一緒に、ベトナムとタイを巡りました。



2015年卒論発表会



2013年卒業旅行 (ベトナム)

経験を教えてもらい、かけがえのない仲間との縁を繋いでいただいたからだと感謝しています。

先生とは卒業後も、メールでやりとりをさせていただきました。先生は丁寧で温かい文章で励まして下さいました。「山中君は私の期待通りに仕事で頑張ってくれており、とても頼もしく誇りに思いますが」、この先生の言葉は私の大きな支えとなっております。お会いすると先生は嬉しそうな顔で、「今年の四年生は優秀だ」「先日のゼミでは学生に言い過ぎてしまった、でもそれは彼らに期待をしているからなんだ」と語っておられました。私だけでなく、多くの卒業生・現役生一人ひとり真剣に向き合い、気持ちに寄り添い、優しく見守って下さっていました。先生は、我々卒業生の人生において大きな存在でした。

だからこそ、先生とのこのようなあまりにも早い別れは無念でなりません。もっと連絡をしておけばよかった、もっと会って話したかった、先生にこれからも「頑張っているね」と褒めていたかったです、そして先生のために私達は何かできたのではないかと。悔しく、悲しく、やるせない気持ち溢れてきます

しかし一番無念なのは鳥羽先生自身なのではないでしょうか。現役学生への指導、またご自身の研究、志半ばでの旅立ちに大変戸惑われていることと存じます。

残された私達は、鳥羽先生という素晴らしい先生がいたと語り継いでいきます。先生に育んでいただいた志を胸に各自の持ち場で認められるよう行動していきます。

これからも卒業生同士で集まって、思い出話をする中で先生の教えを思い返すことが、恩返しになると信じています。

日々お忙しそうだった先生、長い間お疲れ様でした。大変お世話になりました、ありがとうございます。先生の教え子になれたことを誇りに思っています。

二〇二四年六月八日  
鳥羽ゼミ卒業生代表  
山中 遼

## 富山大学経済学部 (旧高岡高商) 創立100周年記念ゴルフコンペのご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、越嶺会グリーン会が主催するゴルフコンペを下記のとおり開催いたします。

本年、富山大学経済学部 (旧高岡高商) が「創立100周年」を迎えるにあたり、記念行事の一つとして記念ゴルフコンペを開催いたします。より多くの越嶺会会員の皆さまにご参加いただき、同窓の絆を深めるとともに、同窓と現役との交流の機会ともなればと考えております。

何かとご多用のこととは存じますが、同窓会員の方々をお誘い合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

- 開催日時 2024年10月14日 (月・祝) 7時00分スタート
- 開催場所 太閤山カントリークラブ (コース：茜⇒楠、楠⇒蘭、蘭⇒茜)  
〒939-0323 富山県射水市平野1番地/TEL: 0766-56-1200
- 参加費 プレー代 15,650円 (税込/キャディ・乗用カート付き)  
会費 5,000円 (但し、20代・30代 3,000円)  
※キャディ不足によりセルフプレーをお願いする場合がございます。  
※セルフプレー代 13,450円 (税込/乗用カート付き) となります。
- 競技方法 18ホール・ストロークプレー H'cpは新ペリア方式を採用し、36で打切ります。  
表彰 順位賞、飛賞、BB賞、ベストグロス賞、その他各賞  
※競技終了後、懇親会会場にて表彰いたします。
- 参加申込 **8月31日(土)までに**、下記の参加申込書をFAXまたはメールにて、越嶺会事務局へお申込み願います。お一人でのお申込みも可能です。
- お申込み先 越嶺会事務局 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学経済学部に  
TEL: 076-445-6411 (直通) / FAX: 076-445-6419 (学部共通)  
E-mail: etsurei@eco.u-toyama.ac.jp
- お問合せ先 幹事 金瀬 正志 (学部41回)  
勤務先: 日本海ガス(株) 〒930-8588 富山市城北町2番36号  
TEL: 076-443-1820 / 携帯番号: 090-8965-1810  
E-mail: kanase@ngas.co.jp

以上

宛先: 越嶺会事務局

FAX: 076-445-6419

### 参加申込書

創立100周年記念ゴルフコンペに参加いたします。 A: 高岡高商 B: 富大経済 C: 経営短大

フリガナ		生年月日	昭和・平成	年	月	日生
氏名		回生		ゼミ		
住所	〒	—				
連絡先Tel		—		電子メール		

同伴希望者名①		住所		回生		ゼミ	
同伴希望者名②		住所		回生		ゼミ	
同伴希望者名③		住所		回生		ゼミ	

セルフプレー (右記欄に○付)

可 (希望) ・不可

## 経済学部創立百周年記念エクスカージョン (小旅行)

実施日：令和6年10月14日 (月・祝)

会費：A、Bコースとも5千円 (同伴者同額)

経済学部創立百周年記念事業として、学生時代に過ごした日々を想起し富山大学・富山県の「今昔」を実感できる、エクスカージョン (小旅行) を実施いたします。  
下記の内容をご参照いただき、奮ってお申込み・ご参加ください。

○コースのご案内： 以下2コースでの実施を予定しております。

**A) 立山散策コース (8:30集合～17:00頃解散予定)**

富山駅北口===五福キャンパス見学===立山カルデラ砂防博物館(立山の自然や歴史を学べる施設です)  
===室堂散策 (紅葉・みくりが池付近の景観をお楽しみください) ===あるぺん村 (休憩・お買い物)  
===富山駅北口

**B) 富山・岩瀬コース (9:15集合～16:15頃解散予定)**

富山駅北口===富山大学五福キャンパス見学===  
===呉羽丘陵フットパス連絡橋 (富山市の新たなランドマーク) ===  
===池田屋安兵衛商店 (ます寿司体験または食べ比べ) ===富岩運河環水公園 (富岩水上ライン乗船)  
===岩瀬カナル会館===岩瀬散策 (満寿泉・森家など) 富山港展望台===富山駅北口  
※バス、もしくは市内市電 (路面電車) にて移動

お申込みは下記申込書を、メール、FAX、郵送のいずれかにて越嶺会事務局までご連絡下さい。  
詳細についてはエクスカージョン担当・竹田達矢 (学部38回) までお問い合わせください。  
なお催行人数 (20名) に達しない場合は中止となる場合もありますので、ご了承願います。

----- 切り取り線 -----

(申込書)

コース	お名前	卒業回	〒	現住所	携帯電話又は自宅電話番号

**住所変更通知欄 (越嶺会事務局 FAX:076-445-6419)**

住所や姓名等に変更があった際はFAX等でお知らせ下さい。

お名前 \_\_\_\_\_ 昭、平、令 \_\_\_\_\_ 年卒 (第 \_\_\_\_\_ 回)

新住所 \_\_\_\_\_

新電話 \_\_\_\_\_

(差し支えなければメールアドレス \_\_\_\_\_ )

新勤務先 \_\_\_\_\_

-- 通信欄 --

# 記念大会及び関連行事への参加申込書

越嶺会事務局 FAX 076-445-6419

下記4つの行事について参加申し込みを募ります。本誌の第2頁等をご覧ください。

お名前 \_\_\_\_\_

卒業回・年 \_\_\_\_\_

- |   |    |       |
|---|----|-------|
| 1. 記念式典・パネル講演・演奏会                         | 参加 | 参加しない |
| 2. 祝賀会 (会費1万円は当日現金でお支払いください。)             | 参加 | 参加しない |
| 3. ゴルフ 21頁のゴルフ申込書もお送りください。                | 参加 | 参加しない |
| 4. エクスカーション (バス小旅行)<br>22頁の参加申込書もお送りください。 | 参加 | 参加しない |

通信欄

富山大学経済学部(旧高岡高商)

## 創立100周年記念大会

2024

大会テーマ

10.13 SUN

新たな価値創造とチャレンジする人材育成  
(学生と企業との出会い創生)

記念式典

開会 10:00~12:00(受付開始 9:00)

会場 AUBADE HALL オーバード・ホール大ホール  
富山県富山市牛島町9-28 (JR富山駅北口)

記念祝賀会

開会 13:00(受付開始 12:30)

会場 オークスカナルパークホテル  
富山県富山市牛島町11-1

富山大学経済学部卒業生の越嶺会員の皆さまには  
100周年記念大会・記念事業へのご寄付をお願いいたします。

概要は、右記QRコードより越嶺会ホームページをご参照ください。▶



富山大学経済学部同窓会

# 越嶺会

越嶺会事務局

〒930-8555 富山大学経済学部内  
TEL : 076-445-6411 FAX : 076-445-6419  
mail : etsurei@eco.u-toyama.ac.jp  
URL : <http://www3.u-toyama.ac.jp/etsurei/>

式典・祝賀会のお申し込みはこちらから

